

現市長
は

「市長にふさわしくない。 出馬やめ身を引くべき」



市長をたずねる中山いくみ市議
(9月9日)

中山市議が現市政の4年間検証



中山いくみ
市議会議員

日本共産党

早良区民報
2010年秋季号外

中山いくみ市議の活動を紹介します。市政へのご意見・ご要望をお寄せください。(日本共産党西部地区委員会 tel.841-1158)

発行：日本共産党福岡市議団
www.jcp-fukuoka.jp
電話 711-4734 FAX741-4627

無料 生活・法律
そうだん

◎定例相談会

日時／毎月第2金曜日
受付／午後7時～8時
場所／中山事務所
(早良区飯倉5-14-51)
お問い合わせ／
電話841-1158
(党西部地区委員会)

サラ金・相続・離婚・生活保護・
地域問題など弁護士と中山市議
が相談を受け付けます。お気軽
におこしください。

赤旗を読みませんか？
日刊／月2900円 日曜版／月800円
電話841-1158へご連絡ください

9月議会報告

9月10日、福岡市議会で日本共産党の中山いくみ市議が質問にたち、この4年間、市政の各分野で市長が市民の期待を裏切り、公約違反を重ねてきたことを明らかにしました。

子ども病院の人工島移転 子どもの命と健康守れぬ

中山市議は子ども病院の人工島移転を見直すのが市長公約だったと指摘。ところが市長は内部で検証チームをつくり、わずか1年でゴーサインを出しました。市民は25万筆の署名で反対しましたが市長は拒否。「明らかに公約違反」「子どもの命と健康は守れぬ」と追及すると市長は「検証の結果、適地だった」と答えました。

また市側は移転決定の過程をめぐり住民訴訟がおきている問題について「手順をふんできた。一部の人は理解せず訴訟した」と答弁。移転反対の多数の世論を敵視しました。

人工島事業にしがみつき 福祉・教育をきりすて

また、市長は4年前、「土地を造って売るという手法に限界がある。金を呼び込むための開発にさようなら」と公約していました。しかし人工島の埋立をつづけ、土地も売れず安売りしていることを、中山市議は批判。

他方で、市立病院の独立行政法人化で医師・看護師不足が生じた問題や、「中止の方向で見直す」とした公立保育所の民営化を強行したことについても批判しました。

中山市議は、市長が教育予算削減による学校の老朽化、今年の国保料値上げなど「住民の福祉の増進」という自治体本来の仕事の予算や職員を削った事実をあげました。

財界やオール与党に 「心耳をすます」市長

市民の声を聞くとい
いながら「心耳をすま
して」きたのは財界や
オール与党の声だけ
だったと、中山市議は
市長を追及。「市長に
ふさわしくない。出馬
をやめ身を引け」と迫
りました。

中山質問 新聞でも話題に

この質問は11日付の「西日本」「読売」
でとりあげられ、20日付「毎日」夕
刊の特集等でも紹介されました。

質問を 終えて

現市長は市民との公約を破ったことに痛みも重
みも感じていないようでした。もう市長をかえる
しかない、と強く感じました。



児童館

市議会第2委員会

1か所だけで良い!?
設置求める請願が継続審議に

9月1日に市議会第二委員会で行われた請願審査では、公約を破り、頑なに児童

**専門職員のいる児童館を
計画的につくれ**
中山議員が要求

小学校区に0〜18歳までが自由に集える児童館をつくって欲しい！ 児童福祉法で定められた児童館が中央児童会館1か所しかない福岡市民にとって切実な願いです。20数年にわたる請願署名は40万筆近くに上っています。

館設置に背を向ける市長の姿勢を中山いくみ議員が厳しく追及しました。当局は留守家庭子ども会や子どもプラザ、公民館等、他の施策を理由に本市では児童館を増やさないという態度に固執。中山議員はこどもや若者の発達にとって遊びは極めて重要。専門職員がいて0〜18歳が自由に集える児童館を計画的につくるべきだと強く求めました。

自民・公明・民主などが背を向ける

請願を採択すべきかどうかの各党派協議では、共産党が「市民の悲願だ。採択すべき」と主張。これに対し自民・公明・民主・みらい等が「現状の施策で十分だ」等の理由で「採択」に同意せず、背を向けました。その結果「継続審議」となりました。



教室にエアコンを

日本共産党市議団が議会で提案

日本共産党市議団は10月の決算特別委員会で学校の普通教室のエアコン設置を提案。文部科学省の基準で夏は30度以下、冬は10度以上となっていることを指摘し、夏は汗でプリントがベロベロになる、冬はスカートの下にジャージを着るなど実態をつきつけました。

教室エアコンは中山議員が教師時代の生徒との約束です。実現までがんばります。



教室窓サッシ 落下事故

昨年12月から今年6月の半年間で市内中学校の窓のサッシが落下する事故が4件発生し、大問題となっています。中山議員は3月予算議会で、専門家による緊急点検と修繕予算を確保するよう厳しく追及。この質問を受け、経済専門誌でも福岡市の異常な事態が特集され、これを受け、文部科学省が全国に注意を呼び掛ける通知を出すに至りました。

当初予算では対応できず、9月議会で補正予算が提案され、可決されましたが、これまで教育予算を増やして十分な安全

2億3000万円の点検・ 補修予算が成立

中山議員の論戦で

点検・改修をしてこなかった市長の責任は重大です。

中山議員は、今年の夏も「公共施設を考える会」のみなさんと一緒に、現場の実態を調査し、引き続き学校現場の安全対策、環境改善に奮闘中です。

学校ウォッチング

市民団体とともに、区内の小中学校の施設を点検。具体的に修繕箇所を市に報告し、議会でもとりあげて、実際の改善につなげてきました。(写真は高取中)



中山いくみ 現場の声を届ける